

だれもがイキイキと暮らし、働き続けられる社会を目ざして



永島 智子 委員長

イオンリテールワーカーズユニオン

組合員数14万名・8割がパートの仲間達



株本 佳子 委員長

大阪ガス労働組合

エネルギー業界初・職場は男性が8割超

2名の女性委員長が貴重な体験まじえ提言

組合活動をとおりて成長し輝く二人

片や男性が8割超の職場に初めて誕生した女性委員長。片や組合員数十四万名の組織のトップに立つ女性委員長。日ごろから注目を集める大阪ガス労働組合・株本佳子委員長とイオンリテールワーカーズユニオン・永島智子委員長が、男女共同参画推進キャンペーンにちなんだセミナーで宮城・仙台の地に会し、講演を行うと聞き、機関紙・誌をつうじて多くの組合員の皆さんに伝えたいと考えました。

株本委員長は、労働組合の女性役員を増やすためには、なによりも「トップの強い思い」が重要と語り、労働組合もキャリアプランをつくって育成すべきというユニークなアイデアを提案しました。また、永島委員長は、組合活動に本気で携わるきっかけとなった会社の経営破綻の体験や、ライフワークとして推進しているパートタイマーの処遇改善・組合員化の取り組みについて語りました。講演内容は『UAゼンセン新聞』（七月五日号）に掲載します。ぜひ注目。

『UAゼンセン新聞』に講演要旨

『UAゼンセン新聞』の株本・永島両委員長の講演内容（要旨）は下記のQRコードからご覧いただけます。



両委員長の活動や思いを詳しく紹介！
「UAゼンセンなでしこジャパン」へ

『ダイバーシティ・セミナー』で女性リーダーの育成テーマに講演

UAゼンセン宮城県支部
男女共同参画推進委員会

労働組合にこそ男女共同参画が必要



5月17日に行われたセミナーには6組合・25名が参加した。前列中央がUAゼンセン宮城県支部男女共同参画委員会の今里織委員長（藤崎労働書記長）、左から2人目が富永信明宮城県支部長

UAゼンセンは、だれもがイキイキと暮らし、働き続けられる社会を実現するため、職場、家庭、労働組合の男女共同参画を推進しています。今号では、キャンペーン（5～7月）に合わせた特集として、「労働組合の男女共同参画」について取り上げます。5月17日にUAゼンセン宮城県支部男女共同参画推進委員会が行った「ダイバーシティ・セミナー」で「女性リーダーの育成」について講演した2名の女性委員長にスポットを当て、労働組合に女性が参画する重要性について考えたいと思います。

男女共同参画推進計画

UAゼンセン 3つの目標

Point 1

職場の男女平等

男女や働き方にかかわらず自分の力を発揮できて、それがきちんと評価される職場を目ざします！

Point 2

ワーク・ライフ・バランス

すべての働く人が、仕事と生活のバランスが取れてイキイキと働ける職場を目ざします！

Point 3

労働組合の男女共同参画

あらゆる組合員が活動に参加でき、さまざまな立場の声を反映できる組合を目ざします！

UAゼンセンなでしこジャパン

なでしこファイル

066

大阪ガス労働組合

委員長

株本 佳子さん



UAゼンセン常任中央執行委員を務める株本委員長。執行委員会では、積極的に発言し、皆が分かりやすい運動の推進に努める



組合事務所で、岩木年広副委員長（左）と肩を並べて執務に当たる株本佳子委員長

かぶもと よしこ。1965（昭和40）年4月生まれ。大阪府門真市出身。84（昭和59）年、高校卒業と同時に大阪ガス入社。堺製造所の総務チームに勤務。製造所の閉鎖に伴い、90（平成2）年から本社・人事部で人材育成に携わる。その後、北東部事業本部で人事労務を担当。労働組合では、2002（平成14）年に中央執行委員に就任し、本部専従となる。副書記長、書記長、副委員長を経て、昨年9月から委員長を務める。UAゼンセンの常任中央執行委員をはじめ、総合サービス部門の副部門長やダイバーシティ推進委員会委員長として活躍。みずから飲み会の幹事を引き受けるほど面倒見が良く、お世話活動をいとわない。奈良県生駒市に夫と暮らし、ことし銀婚式を迎えるそう。本誌エッセー連載中の“なにわのおっさん”こと林司さんは、尊敬する3代目委員長。

昨秋、大阪ガス労働組合の六代目委員長に就任した株本佳子さん。大阪ガス労組初の女性委員長であり、エネルギー業界（ガス、電力など）でも初の女性委員長として注目を集めています。

大阪ガスは仕事柄、男性が多く、女性には二割にも満たない職場。株本委員長は自身の経験をとおりして、「仕事も組合も、性別に関係なく、人々に焦点を当て活躍してもらうことが大切」と話します。職場時代の忘れられない経験や、労働組合に携わるようになったきっかけ、委員長に就任することを決めた理由などを紹介します。

どんなに忙しくても周りを明るくする 太陽のようなりーダー



昨年9月の大会で株本委員長体制が船出した。写真は、新執行部と書記の皆さん。本部専従は三役を含む中央執行委員11名と中央書記3名でスタート。12支部体制は変わらず、本部と支部が力を合わせて活動を推進している

U-zenzen同盟第九回定期大会での退任挨拶の様子



「中央執行委員で戻ってきたい」
退任挨拶に会場からエールの拍手

U-zenzen同盟（当時）は、中央執行委員会（決議機関）への女性の参画を促すため、8ブロック選出の特別中央執行委員（女性枠）を設け運動を進めていた。2004年から3期6年特別中央執行委員を務めた株本さんは、退任挨拶で「今度は選挙で選ばれる中央執行委員として戻ってきます」と述べ、エールの拍手が沸き起こった



上は、中央リビング支部の支部役員を対象としたオルグ（職場巡回）の事前勉強会の様子。一時金に関する会社からの提案や、組合の中期活動計画などを報告。右は、勉強会前にコミュニケーションをはかる株本委員長。左から、秋田達也支部委員長、小島忠将支部執行委員、松浪雄介支部書記長



U-zenzenの本部や総合サービス部門の会議などでzenzen会館（東京・市ヶ谷）を訪れる機会が多い大阪ガス労働組合の株本佳子委員長。以前、館内で偶然お会いした際、原稿書きで煮詰まっていた私の顔を見て、「大きく腕を広げて深呼吸するだけでも気持ちほぐれますよ」と、温かくアドバイスしてくれた。いつもニコニコしていて、周りへの気遣いが自然とできる株本委員長。

大阪ガスは一八九七（明治三十）年に設立。現在、近畿二府四県七十九市三十三町にガスを供給し、顧客数は七百万戸超に及ぶ。また電力事業をはじめさまざまな事業をつうじて地域の暮らしを支えている。

歴史ある大阪ガス本社（大阪市中央区）の二階に構える組合本部を訪ねると、専従の皆さんが温かく迎えてくれた。株本委員長は会社との話し合いの真つ最中。午後からは支部会議が控えているとのことで、忙しい合間を縫って取材に対応してくれた。

組織のトップとして組合内はもとより、業界団体など対外的な会議も多く、毎日、分刻みのスケジュールをこなしている。そんななかでも太陽のような笑顔を絶やさず「遅れてすみません」と株本委員長が駆け込んでくると、事務所の明るさが増したように感じた。

さっそく、最初に配属になった堺製造所の思い出について伺った。「いまは輸入した天然ガスが主でクリーンなエネルギーが当たり前ですが、私が入社した当時は、石炭を蒸し焼き（乾留）にしてガスを製造していました。若い仲間がこの話をするとなら石炭のようには見られず」と微笑む。堺製造所は乾留後に炭素部分が残る燃料（コークス）を、コンビナート契約を結んでいた新日鉄堺製鉄所に提供



上は、新入組合員研修で挨拶する株本委員長。研修後は「OG」マークを掲げて記念撮影



先輩達が委員長就任を祝って催してくれた食事会の1枚。左は新旧本部専従メンバーによる寄せ書き



女性が2割に満たない職場だからこそ 少数の声に耳を傾け制度の改善を



六月十一日、泉北支部では女性組合員の交流会を開催。株本委員長は仲間の声を聞き、懇親を深めた

株本さんだからの言葉に 勇気をもって委員長に

北東部事業本部の人事労務を担当していたとき、本田敏一委員長（当時）から「組合の専従になつてほしい」と声をかけられた。本田委員長は以前、堺製造所支部の書記長を務めていたこともあり、株本さんが職場の仲間と接する姿を見て、専従にふさわしいと思ったのであろう。しかし、株本さんは頑なに誘いを断つたそうだ。「組合について全く知識がなかったのです」と、話してくれた。

しばらくすると、よく知る女性の先輩が専従役員になったことを知り、組合を身近に感じ、組合ニュースなどを見るようになったという。本田委員長から「女性役員は複数必要なんだ」とふたたび声をかけてもらったときには、もう迷いはなく決心が固まった。

三十六歳で専従の中央執行委員に。福祉対

し、株本さんは総務チームで現場の仕事を支えていた。四年が過ぎたところ、新日鉄堺製鉄所の閉鎖に伴い、堺製造所が閉鎖することが決まった。株本さん達総務チームは、従業員六百名の異動先の調整・確保に全力を注いだ。「二年かけて全員を送り出すことができました。忘れられない経験です」と振り返る。その後、本社の人事部に異動し、七年間、人材育成に携わった。株本さんのもとで育ったメンバーがいまでは組合の支部役員として活躍していることが素直に「うれしい」と語る。

副委員長時代にコラムで思いを発信

今月のコラムニストは…
株本 中央副執行委員長

「よしこの部屋」



「よしこの部屋」では、旬国、ある人物をお客さまとしてクローズアップし、そのお客さまのエピソードを通じて組合活動に関する思いを発信していきます。

第2回目のお客さまは、市川海老蔵さんのパートナー、「小林麻央さん」です。

年明け早々、あるテレビ番組を見ました。そこには「乳がん」公表後、痛みや苦しい治療に耐え続ける麻央さんの姿がありました。このような状況の中、「妻として」「母として」気丈にも笑顔を保ち受け答えをされるインタビューの様子が特に印象的でした。麻央さんの周囲の方々への感謝の気持ち、そして何より家族への愛情あふれる思いやりが伝わった言葉に、切なくて胸が締めつけられる思いでした。

乳がん、子宮がんは女性が罹りやすいと言われており、特に乳がんはダントツの1位です。このようながんの早期発見のため、大阪ガスでは過去から婦人科健診の受診促進やサポートを行っています。また5年後ほど前からはお昼休みを利用し、労使共同開催で「WLB（ワーク・ライフ・

バランス）ウェルネス講座」を開催しています。「女性は自分のことは後回しにしがち。ぜひ自分のことも考えて」と、講師の健康管理センター松本看護師は常におっしゃいます。「早期発見、早期治療」のため、私からもぜひ定期的な受診をお願いします。

（パートナーにも必ずお勧めを！）

さて、1月29日、嬉しいニュースが飛び込んできました。麻央のブログ「KOKORO.」の記事に「退院」という喜びの文字が踊ったのです。～「ステージ4だって治したいです!!5年後も10年後も生きたいのだー」～退院された今、この言葉が必ず実現することを願っています!!

▷▷「来月は岩本中央副社長よりコラム～本社産婦二階より～をお届けします。」



組合員との接点が少ない副委員長時代に、労組機関誌『ういずゆー』に隔月でコラムを掲載。

「徹子の部屋」を文字って「よしこの部屋」と題し、組合活動に関する思いを発信した。連載2回目は小林真央さんについてふれ、労使で女性の健康セミナーを開催していることを伝え、健康を第一に考えてほしいと訴えた

OFF

多忙を極めるなかでも プライベートの時間は大切に



2006年にUIゼンセン同盟生活・総合産業部会で台湾との交流会に参加したことがきっかけで、中国語を習い始めたそうだ。「土曜日に1時間2コマ勉強しています」。写真は使い込んだテキストブック



3月に大阪ガスグループが開催した駅伝大会には、組合専従メンバーも出場。株本委員長も激走し、いい汗をかいた



大阪ガス労組では地区ごとにボランティア活動に取り組んでいる。5月19日には総勢43名が参加し大阪府立大学内の池の外來種駆除を行った

策部の担当になり、さっそく「自社保有の住宅をなくしたい」という会社からの提案に対応することとなった。組合員と配偶者を集めた説明会では、外部の賃貸に入ることや金銭面の不安、子供の学校が変わることへの悩みなど、多くの意見や要望が上がった。株本さんは組合としてそれに応えようとするものの、同席している会社の担当者は首を縦に振らない。「組合でなんとかしてほしい」と株本さんは矢面に立たされた。「最終的には経過措置も含めて会社はきちんと対応してくれるが、組合員のために会社に対して毅然とした態度で発言していく原点を学びました」。

女性初の書記長、副委員長を歴任し、経験を積んできたが、委員長になることについては悩んだという。蔵元浩昭前委員長からの、「女性だからじゃない。株本さんに委員長をやってほしい」という言葉が決め手となった。

委員長に就任して半年。支部役員を務めていた黒田直子さんを専従書記に迎える際、株本委員長も「黒田さんだから来てほしい」と気持ち伝えたそう。委員長の期待に応えていきたい」と黒田さんは意欲を語る。

従業員五千八百名のうち組合員は四千九百名で、女性比率は一七・八％と二割にも満たない。株本委員長は「すべての組合員が安心して働き続けられる制度や環境をつくるのが労働組合の役割です」と力を込める。

信条は、「不断の努力」と「昨日の自分より一ミリでも成長」「一生(笑)懸命」。最後に「毎日、しんどいな、頑張ろう、の繰り返しです。私らしい委員長像を模索しながら前に進んでいきたい」と微笑んだ。周りを明るく照らす太陽のような新委員長に大きな期待が寄せられている。

UAゼンセンなでしこジャパン

なでしこファイル

067

イオンリテール

委員長

ワーカーズユニオン

永島 智子さん



経営破綻や組合統合を乗り越え 頼りがいのある女性委員長



仲間と談笑する永島さん。イオンリテールワーカーズユニオンの本部は、JR京葉線「海浜幕張」駅の近くにそびえたつイオンタワーの十三階にある



ユニオン本部の仲間達と一緒に笑顔で「田村ま〜み〜」

ながしま ともこ。1969（昭和44）年1月、大阪府高槻市生まれ。現在は千葉市内で一人暮らし。大学時代は新聞学を専攻し、ジャーナリストを志したこともあった。1993（平成5）年4月にニチイ（後のマイカル）入社。マイカルユニオン書記長、イオンリテールワーカーズユニオン書記長を経て、2016（平成28）年10月にイオンリテールワーカーズユニオン委員長に就任。UAゼンセンでは現在、中央執行委員を務める。趣味は旅行と読書。3日以上連休が取れると、国内外を問わず、ぶらりと旅に出るという。座右の銘は、宇佐美忠信元ゼンセン同盟会長の『足は職場に、胸には祖国を、眼（まなこ）は世界に』。この言葉にふれたときは心が震えたという。「なにをなすべきか、この言葉がすべてを表しています」と話す。

イオンリテールワーカーズユニオン・十四万余名の組合員をリードしている永島智子委員長。マイカルユニオン出身で、これまで企業の経営破綻や企業合併、それに伴う組合統合などいくつもの試練を皆と力を合わせて乗り越えてきました。また、パートタイマーの組合員化（組織拡大）や「同一労働同一賃金」（正社員との均等均衡処遇）の実現に力を入れ、着実に成果を上げてきました。年齢や性別、国籍などに関係なく、多様な人材が力を発揮できる環境づくりにまい進している永島委員長の素顔を紹介します。

パートの仲間の組合員化と 処遇改善で実績

二〇一七年十月開催の第八
回定期中央大会で代表挨拶



第8回定期中央大会に出席した組合役員。男女共同参画を進め、組合役員の女性比率は中央執行委員で3分の1、支部役員を含めると過半数を超える



組合員の思いを胸に団体交渉に臨む執行部。「職場」「個人」「社会」で仲間同士がつながり、幸せを実感できるように力を尽くす



千葉県・幕張新都心のイオンリテールワークスユニオンの事務所を訪ねると、フロアには二十名を超える専従の仲間達。驚いたことに、永島智子委員長は、皆と同じ机の島の一番端っこに皆と対面して座っていた。「事務所に出勤するのは十日に一回くらいですの
で、ここです」
と微笑む。

一九九三年春、大学を卒業しバイヤー（仕入れ担当）になりたくてニチイ（後にマイカル）に入社した。「女性の視点で力が発揮できる職場ではないかと思いました」と動機を語る。小売業に興味を持つようになったのは、学生時代に経験した新商品のサンプリングのアルバイト。お客さまに商品を提供し、満足していただくよる喜びを味わったという。

最初に配属されたのは、東大阪市の布施店。部署は後方業務担当だった。日々、従業員の出・退勤の管理や出納業務などに携わり、お客さまと接することはほとんどなかった。これが三年間続いた。「売り場で働きたい」と店長に相談し、願いが叶った。「もし叶わなければ、別の道を歩んでいたかもしれません」。台所用品や服飾雑貨を担当。その後、明石店に異動となり、充実した日々を過ごした。

そんな永島さんがマイカルユニオンの専従の中央執行委員になったのは二〇一〇年十月。それまでは非専従の支部・ブロック役員として組合活動に携わっていた。とりわけ明石支部は活動が活発で、忙しい日々を過ごしていたが、専従の話は「寝耳に水」で、丁重にお断りしたという。しかし、熱意あるラブコールが続き、義理人情に厚い永島さんは「お役に立つことができれば」と引き受けた。

専従として一年が過ぎようとしていた二〇一一年九月十四日、会社が経営破綻。ゼ

パート社員の処遇改善

時期	内容（抜粋）
2005 年	・従業員買い物割引の全社員同率化 ・勤続1年以上の日給月給コミュニティ社員の育児・介護休職 ・連続休暇の取得しやすさを確保
2006 年	・評価給の廃止と能力給の導入 ・日給月給コミュニティ社員へ家族手当の導入 ・時間給の長時間リーダー資格に10円もしくは20円の時給アップ ・時間給から日給月給への変更要件の緩和（資格要件の引き下げ、職位要件の廃止）
2007 年	・65歳までの雇い止め年齢の引き上げ ・時間給から日給月給コミュニティ社員登用層への一時金を2カ月もしくは3カ月の増額 ・時間給全資格に約11～22円の増額
2009 年	・コミュニティ社員を対象とした事業所閉鎖に関する協定の締結
2012 年	・永年勤続表彰制度・定年退職慰労制度をコミュニティ社員に適用
2014 年	・労災付加給付の改定
2015 年	・日給月給社員制度に合わせ、コミュニティ社員マイカー通勤費改定
2016 年	・日給月給社員の人事制度改定＝勤務地限定社員も含め、日給月給社員すべてを無期契約へ。転居転勤をしなくても経営層までの活躍を可能とする
2017 年	・65歳以降の人事制度導入＝職務内容が同一の場合、定年再雇用後も同一の賃金水準とする
2018 年	・勤続5年以上のコミュニティ社員の私傷病休職期間を180日に拡大



ことしの1月に開催した労使共催政策発表会でのひとコマ。労働組合の支部長以上と会社の店長以上の約1300名が出席。政策を共有し、心をつなげた



同じユニオン出身の「田村 まみ」U Aゼンセン組織内参議院議員候補予定者（右）と力強い握手。「同志です。目指す社会実現のために、労働運動と政治の場でお互いに頑張ると誓い合いました」

多様な人材が最大限の力を
発揮できるような環境整備にまい進



二〇一六年六月に「連合寄付講座」で講義をする永島委員長（当時書記長）。講演や原稿執筆依頼が多く、「発信しなければ、現状を変えることはできないと思います。いただいた機会を大切にしています」と語る

ンセン同盟（当時）の定期大会に出席するため北海道にいた永島さん達はすぐに大阪の組合本部に駆けつけ、職場や組合員の雇用を守るため、一丸となった。それまでも希望退職を募るなど職場で動揺はあったが、これで組合員の不安や怒りはピークに達し、とりわけ組合員と直に接する支部長は大変な思いをしたという。当時のゼンセン同盟も合理化対策委員会を立ち上げ、全国の都道府県支部の職員などが各店舗を巡回し、組合員や支部役員を激励し、商品の保全などに奔走した。

その後、イオンが後ろ盾となって再建の道を進み始める。「最大の危機を皆の力で乗り越えました。労働組合の必要性をあらためて実感するとともに、ゼンセン同盟の指導力・組織力や加盟組合の仲間の皆さんの励ましが大きな支えとなりました」と振り返る。

永島さんは二〇〇八年にマイカルユニオンの書記長に就任した。ここでも、大きな転機を迎える。二〇一一年三月のマイカルとイオンリテールとの企業合併である（二〇一〇年十二月に、イオンリテールはイオンマルシェと合併）。これを受けて、労働組合も二〇一一年六月にイオンリテール労働組合、イオンマルシェ労働組合、マイカルユニオンが統合し、イオンリテールワーカーズユニオン（約十一万名）を結成。永島さんは書記長という大役を担うことになった。歴史や風土、活動内容などが異なる労働組合が一つになることは容易ではない。労働協約や規則、三六協定

旅行や読書で心身のリフレッシュ

インドネシアを旅行したときの楽しいひとコマ



OFF



イオン、国際産業別組織のUNI グローバルユニオン、UAゼンセン、イオングループ労連は2014年11月、すべての職場において基本的人権を確保する「グローバル枠組み協定」を締結。日本では高島屋、ミズノに続き3例目

イオングループの従業員は世界に約五十二万五千人。ASEAN各国で労働組合を結成している。写真は二〇一七年十二月にマレーシアで開催した第二回イオングループユニオングローバルネットワークコミッティ



などを順次整えていった。そして二〇一六年十月、委員長に就任した。

**働きがいのある職場を目指して
パートの処遇改善に全力投球**

永島委員長がとりわけ力を入れてきたのは、パートタイマー（コミュニティ社員）の組合員化（組織拡大）と、「同一労働同一賃金」（正社員との均等均衡処遇）の実現である。イオンリテール労組は、二〇〇四年から組織拡大に取り組み（マイカルユニオンは更生計画終結後二〇〇六年から取り組む）、二〇〇三年の一万四千名（ほぼ正社員で構成）から二〇〇六年秋には七万四千名（約八割がコミュニティ社員）となった。現在は十四万名で、学生アルバイトを除いたほぼ全員が組合員となっている。

当初、多くのコミュニティ社員が人事処遇制度に不満を持っていたという。「お客さまに満足していただくためには、パートの皆さんの活躍が不可欠です。そのためには働きがいの持てる処遇の改善は必須でした」と永島委員長。組織拡大とともに、着実に処遇改善を進めている（別表参照）。

明るく飾らない方である。「仲間にとって身近なリーダーでありたいと思います。支部の役員が活動しやすい環境を一層つくっていききたい」と思いを込める。ときおり職場の仲間達とホームパーティーを楽しむそうだ。これまで大きな試練を乗り越え、皆で一緒にやる」という意識をなにより大切にしている永島委員長。年齢や性別、国籍などに関係なく、多様な人材が最大限の力を発揮できる環境づくりを進める。